

21. ^{99m}Tc -MAA シンチグラムで hot spots を認めた小児肺分画症術後の一例……………神谷 克己他…793
22. 固相法による RIA-gnost LH および FSH 測定キットの
基礎的ならびに臨床的検討……………佐藤 龍次他…793
23. X線骨塩定量装置 (XR-26 Norland 社) の使用経験……………横山 邦彦他…794

一般演題

1. I-123 IMP SPECT による脳幹部描出の検討

養島 聡 内田 佳孝 安西 好美
岡田 淳一 伊丹 純 有水 昇
(千葉大・放)
椎名 丈城 北方 勇輔 (君津中央・放)

I-123 IMP SPECT による脳幹部特に橋描出について検討した。対象は脳梗塞 46 例, その他の脳血管障害 25 例, 脳腫瘍 28 例, 正常 19 例である。SPECT にはガンマカメラ回転型 (1 検出器) を用い I-123 IMP は約 111 MBq (3 mCi) を投与し, 静注後 30 分から撮像を行った。橋の描出は明瞭, 不明瞭, 欠損と 3 段階に分類し評価した。その結果, 脳梗塞, その他の脳血管障害例では, 正常, 脳腫瘍例に比して橋描出が不明瞭なものが多かった。また脳幹病変を有する症例では, 橋描出は全例, 欠損あるいは不明瞭となった。また crossed cerebellar diaschisis を認めた症例では, 脳幹描出は不明瞭になる傾向にあった。I-123 IMP SPECT による橋描出と病態との関連が示唆された。

2. Mitochondrial encephalomyopathy with lactic acidosis and stroke like episodes (MELAS) の ^{123}I -IMP SPECT による経過観察

佐藤 始広 石川 演美 武田 徹
秋貞 雅祥 (筑波大・放)
吉澤 卓 (同・脳外)

今回われわれは, 臨床所見, 筋生検等の結果より MELAS と診断された 3 症例について, ^{123}I -IMP 脳血流シンチグラフィの有用性について CT, MRI と対比検討したので報告する。

IMP-SPECT ではいずれの症例においても頭頂, 後

頭葉を中心とした血流低下が認められた。stroke-like episode 後には側頭, 前頭葉へと血流低下部位の拡大が認められた。また 1 症例においてのみ小脳の著明な萎縮と血流低下を認めた。3 例中 2 例では, Kuhl らの方法にて絶対血流量を求めた。その結果, 上記血流低下部位においても 25-35 cc/100 g 脳/min の血流量が保たれており, 正常分布を示す領域では 60-70 cc/100 g 脳/min と血流量は増加していた。

^{123}I -IMP 脳血流シンチグラフィは, MELAS の補助診断, 経過観察に有用であると考えられた。

3. ^{99m}Tc -HMPAO 連続 SPECT を用いたアセタゾラミドテストによる脳血流予備能の検討

水野 耕介 寺田 一志 村上 省吾
長基 雅司 桑島 章 平松 慶博
(東邦大大橋・放)
青木 和哉 横内 哲也 岩渕 聡
村山 佳則 笠井敬一郎 渡辺 徳明
牛久保行男 野内 宏之 溝上 徹
鮫島 寛次 吉井 信夫 (同・脳外)

脳循環予備能を短時間に評価する目的で連続した 2 回の ^{99m}Tc -HMPAO SPECT と subtraction 法を用いて安静像および負荷像を一期的に短時間で得, 脳血管障害に対する有効性を検討した。まず安静時に 1 回目の HMPAO を静注し 2 分後に安静像の撮像を開始した。この撮像開始と同時に DIAMOX (1 g) を静注した。撮像には約 12 分かけ, この時間を DIAMOX が薬効を表すまでの待ち時間に利用した。1 回目の撮像終了と同時に同じパイアルから ^{99m}Tc -HMPAO を再び静注し 2 回目の撮像を行い, 撮像終了後時間補正をして 2 回目の像から 1 回目の像を subtraction し, 負荷像を得た。静注から撮像終了までの全過程は終 30 分とした。脳血管障